漢詩の風景（4）

石川 忠久

B　絶句　杜甫

江は碧にして鳥は逾よ白く
山は青くして①花は然えんと欲す
今春看す又過ぐ
②何れの日か是れ帰年ならん

江ハ碧ニシテ鳥ハ逾ヨ白ク
山ハ青クシテ花ハ欲レス然エント
今春看ス又過グ
何レノ日カ是レ帰年ナラン

この詩は、杜甫が※成都にいたときの作です。うち続く戦乱を避けて、友人を頼りにこの地へ来たのです。まず、この地の美しい風景が前半の二句に描かれます。川は深みどりに澄み渡り、その水の色をバックに水鳥はいっそう白く見える。「碧」は深く澄んだみどりです。

（中略）

C　黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る　李白

③故人西のかた※黄鶴楼を辞し
※煙花三月※揚州に下る
孤帆の遠影碧空に尽き
唯だ見る長江の天際に流るるを

故人西ノカタ辞シ二黄鶴楼一ヲ
煙花三月下ル二揚州一ニ
孤帆ノ遠影碧空ニ尽キ
唯ダ見ル長江ノ天際ニ流ルルヲ

黄鶴楼は武昌の町にあります。長江を見下ろすこの楼の上で、孟浩然を見送った詩です。二人とも浪人の身の上でした。就職の手づるを求めての旅でしょうか。孟浩然はここから揚州へ行くのです。

※成都…現在、四川省の省都・成都市。　故人…ここでは古くからの親友のこと。
黄鶴楼…武昌（現在の湖北省　武漢市の一部）にあった高楼で、長江に面していた。仙人が描いた黄色い鶴が壁から抜け出し、仙人を乗せて飛び去ったという伝説がある。
煙花…春がすみ。　揚州…現在、江蘇省　揚州市。古くは広陵といった。

杜甫と李白

杜甫と李白は唐代の二大詩人で、杜甫は「詩聖」、李白はその作風から「詩仙」と称される。
「絶句」は、杜甫が都の長安（現在、陝西省の省都・西安市）を離れ、成都にいたときのもので、成都の春の美しい風景と、故郷へ帰れないままに春を過ごす悲しみがうたわれている。
「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」は、武昌から広陵（揚州）に向かう孟浩然を、李白が黄鶴楼で見送ったときのもの。孟浩然を乗せた舟が消えゆく姿と別れの悲しみがうたわれている。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) **B・C**の漢詩の形式をそれぞれ選びなさい。

ア 五言絶句 **イ** 七言絶句

ウ 五言律詩 **エ** 七言律詩

B［　　］ C［　　］

(2) **B**で韻を踏んでいる句末の字**すべて**に○を付けなさい。

白 然 過 年

(3) **B**の前半の二句は対句となっている。「江は碧にして」と対になっている箇所を、書き下し文から書きぬきなさい。

［　　］

(4) ――線①「花は然えんと欲す」の意味を選びなさい。

ア 花が今にも燃え出すかのように赤く咲いている。

イ 花がまるで燃えてしまったかのように散っている。

ウ 花がことごとく燃え尽きたかのようにしおれている。

［　　］

(5) ――線②「何れの日か是れ帰年ならん」でうたわれている心情を選びなさい。

ア いつまでも美しいこの土地にいたいと願う気持ち。

イ まもなく故郷に帰れることをよろこぶ気持ち。

ウ 今年も故郷に帰れずにいることを嘆く気持ち。

［　　］

(6) ――線③「故人」はここでは誰を指しているか。適当なものを選びなさい。

ア 孟浩然 **イ** 李白 **ウ** 杜甫

［　　］

(7) **C**の漢詩の後半の情景として適当なものを選びなさい。

ア 黄鶴楼にいる孟浩然の姿が青空のかなたに消え、水平線まで続く長江を孟浩然が眺めている。

イ 孟浩然を乗せた舟の姿が青空のかなたに消え、天の果てまで流れる長江を李白が眺めている。

ウ はるか遠くまで流れていく長江が青空のかなたに消え、長江を下りゆく人々を李白と孟浩然が眺めている。

［　　］